

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏 名	楫野 允也		
入学年度	平成 29 年度	学籍番号	17GG901
領 域	総合リハビリテーション科学	分野	
審査委員	主 査	若山 佐一	
	副 査	野戸 結花	
	副 査	石川 玲	
	副 査	對馬 栄輝	

論文題目： 消化器がん術後身体活動量と術後機能改善及び QOL の関連

審査結果要旨：

消化器がん術後リハビリテーション（術後リハ）の運動負荷程度のゴールドスタンダードがないことに対し、術後リハの有益性を明らかにし、プログラム構築へのステップとするために、後ろ向き調査、術後身体機能の調査、術前後の調査により、周術期リハプログラムや自発的運動量が術後機能改善と QOL 改善に及ぼす影響を検討した研究である。学位審査論文にはそれらの研究内容が系統的かつ過不足なく記述されていた。

術前の身体機能、併存症および術後の合併症が術後の身体機能の回復の程度と QOL に影響すること、術後の身体機能と QOL には関連があること、下肢筋力や歩行能力、動きの瞬発力は術後に回復するものの 2 週間では術前のレベルまで回復しないこと、高負荷の運動が可能な者は低負荷の場合よりも身体機能の改善度が高いこと、術後の運動量には便秘と身体機能改善に関する精神的要素が関係していることなど、学位審査論文には術前・術後の運動プログラムを考案する上で考慮すべき新たな知見が多く含まれていた。消化器がん術後リハプログラム構築に向けた術前術後の身体機能や QOL 調査から術前身体機能や活動量を向上させる必要性を導いた一連の研究から研究内容の意義、結果、さらには研究限界についても十分理解していることが、学位論文や審査会において示された。

一連の研究プロセスや適切な倫理的手続きに基づき研究を進めてきたことは、独立した研究者として研究の遂行ができる高い能力を有していることを証明している。これらのことから博士の学位に相当すると判断できる。

最終試験 令和 2 年 1 月 24 日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。